

「お盆」

藤井 英俊

今年もお盆の時期になりました。お盆は日本各地で時期や形は違いますが、ご先祖様との距離がグッと近づく行事として、昔から大切にされてきました。すでにご存知かと思いますが、このお盆についてお話をさせていただきます。

ある時お釈迦様のお弟子である目連尊者が、餓鬼道という地獄で苦しむ母親を救おうとあらゆる手立てを試したにも関わらず、それが叶いませんでした。そして最後にすぎたお釈迦様に言われた通り、他の修行僧にふんだんの飲食をもてなし施したところ、母親は無事に救われたという『仏説盂蘭盆経』というお経に書かれたお話が現在のお盆行事の基になっているようです。つまり、迷いの地獄で苦しんでいたのは、目連尊者自身であったというお話です。そしてこの目連尊者のお姿こそが今ここに生きる、私であります。

私は、お話の中で迷いに迷った末、「飲食のもてなし」という行為が母を救い出す唯一の方法といわれていることは、苦悩する自らの迷いに気付き、「南無阿彌陀仏」のお念仏ひとつによって救われていくことといただきました。このことを表わすお言葉として、「よろずのこと、みなもって、そらごとたわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておわします」と『歎異抄』にあります。「よろずのこと」、つまり目連尊者の苦悩は「そらごと」であり「たわごと」であります。そして「お釈迦様に言われた飲食のもてなし」とはまさしく「ただ念仏」ということではないでしょうか。今に生きる私は、「ただ念仏」とおっしゃった親鸞聖人のお言葉を大切に、目連尊者親子やご先祖様と共に、今年もお盆をお迎えさせていただこうと思っております。